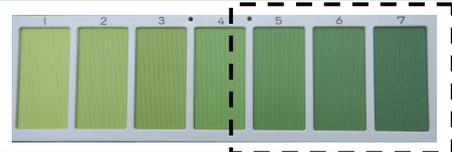


葉色かなり濃い



暑く長い夏の始まり

「東北部 6/29 梅雨明け
平年より25日早い」 気象庁



中干し徹底により①有効茎歩合向上！②土壤窒素を低減！
③根の質・量を向上して出穂後の稲体活力維持！

<現在の生育状況>

表1 普及課作柄診断圃等の生育 (6月30日現在)

品 種	場 所	年 次	草 丈 (cm)	茎 数 (本/m ²)	葉 数 (枚)	葉 色 (SPAD値)	幼穂の生育段階 (出穂前日数)	出穂期 (予測)
はえぬき 移植5/16	鶴岡市 矢馳	本 年	46.3	690	9.9	43.8	苞原基分化開始期 (32日程度)	(8/1)
		平 年	42.2	723	9.5	41.0		8/3
		平年比差	110%	95%	+0.4枚	+2.8		-2日
つや姫 移植5/11	鶴岡市 上清水	本 年	51.8	510	9.4	41.7	未調査	-
		平 年	43.4	569	9.3	41.5		8/8
		平年比差	119%	90%	+0.1枚	+0.2		-
雪若丸 移植5/11	鶴岡市 長沼	本 年	43.3	657	9.6	48.9	苞原基分化開始期 (30日程度)	(7/30)
		指 標	45.0	670	9.6	42.0		8/1
		平年比差	96%	98%	+0.0枚	+6.9		-2日
直播はえぬき (鉄コーティング) 播種4/27	庄内町 下堀野	本 年	47.3	542	9.0	42.8	幼穂未分化	-
		平 年	34.0	576	8.3	40.8		8/12
		平年比差	139%	94%	+0.7枚	+2.0		-

かなり濃い！

草丈は長く、茎数はやや少なく、葉数はやや多く、葉色はかなり濃くなっています。

6月30日現在の幼穂の生育段階によると、「はえぬき」「雪若丸」の出穂期は平年より2日程度早い見込みです。

6月中旬以降は天候が回復し、鶴岡・田川地域の圃場では、茎数は依然として圃場間で差が見られるものの、概ね増加しています。一方、全般的に葉色が濃い傾向です。

まもなく水稻は幼穂形成期に入りますが、穂肥の時期・施肥量は米の品質・食味に大きく影響します。限られた日数の中で中干しを徹底し、適期・適量の穂肥ができる稲姿に整えましょう。

今後の天候次第では、出穂期がさらに早まる可能性があります。穂肥のタイミングを逃さないよう、普及課やJAの情報を参考にしてください。

品種ごとの穂肥の目安は次号「おいしい米づくり情報 第10号」に掲載します。

<当面の重要事項>

1 中干しの徹底

中干しにより①有効茎歩合の向上（＝無効分げつ抑制＝稲の出穂前蓄積デンプン維持）、②土壌中アンモニア態窒素濃度低減（稲の窒素吸収量減＝葉色低下）、③稲の根量増加、などが期待できます。これらは適期適量穂肥やのちの登熟歩合向上にとって不可欠な条件です。

6月末以降に発生する分げつは、有効茎になったとしても弱勢穂となり、クズ米増加の要因となります。中干しをまだ始めていない圃場は、今すぐ中干しを始めましょう（茎数不足のまま中干しに移行した場合は、適正穂肥や今後の水管理により、玄米千粒重を高めることに力点を置きましょう）。

葉色が濃い圃場ほど、強めの中干しとしましょう。

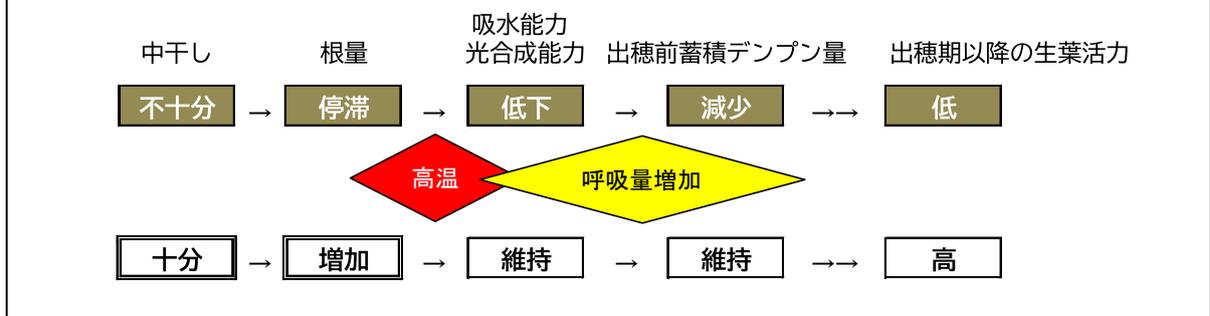
作溝も切りましょう。中干しの効果を高めるばかりでなく、中干し以後、効率的な灌水・排水が可能となります。

表2 中干しの程度の目安

地力 低～並 生育量 不足～並	7～10 日間を目安に、 小ひびが入る程度
地力 高（復元田含む） 生育量 過多	11～15 日間を目安に、大き なひびが入らない程度 （やや強めの中干し）



今年の中干しは、特に根量増加に大きな役目がある



2 斑点米カメムシ類対策

斑点米カメムシ類 やや多い（6月29日 病虫害防除所）



斑点米カメムシ類による被害は毎年同一地区で発生する傾向があります。

斑点米カメムシ類は本田に侵入する前に農道や畦畔の雑草で繁殖するので、発生密度を抑制するために、7月中旬頃まで、農道や畦畔の広域的・継続的な草刈りを行いましょう。

本田薬剤散布を行った後でも、水田内に開花したホタルイや出穂したヒエがあると、斑点米カメムシ類の本田侵入を誘発するので、今のうちにこれらの雑草を除草しましょう。

☀️ 熱中症予防強化月間 定期的に水分と休憩を取りましょう 🥤

- ☑️ 作業は涼しい時間帯に
- ☑️ 定期的に休憩を

- ☑️ 塩分と水分をこまめに補給
- ☑️ 作業は涼しい服装で